

目標達成計画

作成日: 6年 3月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域のコミュニティに利用者の方が参加する機会としてふれあい喫茶を利用しているが、ふれあい喫茶と往診日が重なっていることと、参加できる利用者に対して職員の人員が足りていないことがある。	利用者の方の定期的な地域との交流の場を増やしていくことで、利用者の方の社会参加に繋げる。	職員の定着は現状できているので新たな採用を進めながら人材を確保し、地域のコミュニティを調べ運営推進会議であんしんすこやかセンターの管理者や民生委員の方にも確認をしていく。	6ヶ月
2	6	ひばりヶ丘では各ユニットと全居室にビデオカメラが設置されており、事故発生時に事故の経緯や要因分析と改善策を立てる時に役立っているが、虐待防止の観点からビデオの確認をランダムで行っていて、その事で職員が監視されていると感じている職員も一定数いる。	職員自身がビデオカメラがある事で何かあった時に自分が守られることになると考えるようになり、自分のケアを自信をもって行える施設になる。	普段から職員との1on1面談を実施し悩みや不満をしっかり聞き取り一緒に解決していくことと、ビデオカメラが何かあった時に職員を守る証拠になることを今後も伝えていく。	6ヶ月
3	22	看取り介護があった場合はご逝去後も一度は家族に連絡を入れるようにしているが、退去後の本人や家族に対する相談や支援ができていない。	関係を断ち切らない取り組みの構築ができる。	退去後もその後の進捗などについて確認し悩みや相談があればお話を聞くことで、その解決に繋がる支援を行う。	6ヶ月
4	26	本人ができることまで職員がしてしまっていることがある。	利用者の良い部分に視点を向け、自立に繋がる支援になっているか職員一人ひとりが考えるようになることで、チームとしてより質の高いサービスの提供ができる。	利用者のできないところを見つけるのではなく出来る事に目を向けたモニタリングや介護計画をチームで行う。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。